

2026(令和8)年度
札幌大学転入学・編入学試験(11月)

歴史文化専攻

小論文試験

【小論文テーマ】

①近代初期の世界でひろく取引された商品は、「世界商品」と呼ばれる。このような「世界商品」のもっとも初期の例が、砂糖である。ヨーロッパ諸国の人々は、砂糖生産のために、ブラジルやカリブ海の島々にプランテーションと呼ばれる大農園をつくった。そのプランテーションで働かせる労働力として、数千万人のアフリカ人の奴隷を導入した。こうして作られた砂糖の原料はヨーロッパに送られ、莫大な利益を手に入れた。これによって、ヨーロッパでは、港町と商人の経済が急速に発展した。一方、イギリスやフランスは、18世紀を通じて世界商業と植民地の支配権をめぐる、戦争を繰り返すことになった。また、アフリカやカリブ海の島々には、現代に至るまで大きな爪あとを残すことになった。

それでは、「世界商品」の砂糖をめぐる貿易について、16世紀から19世紀にかけての奴隷貿易と砂糖の輸入貿易との結びつきに着目し、18世紀を通じてイギリスとフランスとの戦争の経過、さらに現代のカリブ海やアフリカ諸国に残した負の効果にも触れながら、下記のキーワードを使用して説明しなさい。〔キーワード：三角貿易、砂糖きび、七年戦争、開発途上国〕

②歴史文化専攻で学びたいこと。

※両方合わせて1000字以内で記述すること。

【出題意図】

①は、歴史の知識がどの程度あるのか、歴史的な出来事を現代にまで結びつけて考えられるかを問う問題。16世紀からの砂糖をめぐる「三角貿易」は、高校のかつての世界史 A・B、最近の歴史総合や世界史の探究で学ぶ内容である。歴史文化専攻に編入学後の授業では、高校までで習った歴史の基礎的な知識から、より専門的な内容へと発展していく内容となっている。そのため、現時点でどの程度の歴史の基礎的な知識があるのかを把握するのが目的である。

②は、歴史文化専攻に編入後にどのような専門分野をなぜ学びたいか、それを将来にどう活かしていくつもりなのか、これらを論理的に説明できる能力を問うのが目的である。

【解答例】

①「世界商品」である砂糖の生産のために、17世紀からヨーロッパ人はカリブ海の島々に広大なプランテーションを経営し、そこで砂糖きびだけを栽培するようになった。そのプランテーションで働かせる労働力として、アフリカから黒人の奴隷が連れてこられ、強制的に働かされていた。すなわち、ヨーロッパの港町を出発した奴隷貿易船は、アフリカで奴隷を獲得し、大西洋を渡って奴隷を南北アメリカやカリブ海域で売り、砂糖を獲得して、ヨーロッパにある母港に戻るのである。このひとつづきの貿易を三角貿易と呼ぶ。この三角貿易によって、ヨーロッパは莫大な利益を手に入れて、港町と商人の経済が急速に発展した。

砂糖のような植民地から得られる「世界商品」の収入が非常に大きくなったことから、イギリスとフランスは、18世紀を通じて世界商業と植民地の支配権をめぐる、戦争を繰り返した。なかでも七年戦争は、イギリスとフランスとの抗争に決着をつけ、戦後に結ばれたパリ条約によってイギリスが世界の貿易の支配権を握ることとなった。

しかし、カリブ海の島々はプランテーションでおおわれ、一面の砂糖きび畑となり、何万人というアフリカからやってきた黒人の奴隷が住むようになり、島の風景も、人口の構成も、経済や社会構造も一変した。プランテーションは、砂糖を生産して、プランターにとって利益を上げるためにのみあり、白人のプランターたちもヨーロッパにプランテーションの利益を持ち帰ることしか考えず、人々の生活水準そのものも劣悪な状況のままだった。また、アフリカでは、働き盛りの青年を中心に多数の人々が連れ去られ、アフリカ社会は、発展の力を全く削がれてしまうことになった。そのため、カリブ海やアフリカの国々が、現在に至るまで開発途上国の状態にある歴史的な理由の一つとなっている。

②私は、かつて白老にある国立アイヌ民族博物館に行き、アイヌ民族の交流に関する展示を見学し、アイヌ文化とアイヌの歴史に興味を持ち、札幌大学の歴史文化専攻を志望した。したがって、編入学後は、歴史文化専攻でアイヌ文化関連の科目、例えば「アイヌの歴史」「アイヌ文化論Ⅰ・Ⅱ」「アイヌ語Ⅰ～Ⅵ」を履修して、アイヌ文化とアイヌの歴史を学びたい。また、歴史文化専攻には、北海道を中心とする北方圏の歴史を学べる「日本北方史」も履修したいと考えている。卒業後は、アイヌ文化や北方史の知識を生かせるような仕事、例えば、マスコミや出版業への就職を希望している。